

## 平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年10月31日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社TOKAIホールディングス

コード番号 3167 URL <http://tokaiholdings.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 鴫田 勝彦

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員管理部担当

(氏名) 小澤 博之

TEL 054-275-0007

四半期報告書提出予定日 平成25年11月13日

配当支払開始予定日

平成25年11月29日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	84,315	0.8	411	△84.0	303	△85.9	△354	—
25年3月期第2四半期	83,610	1.2	2,573	16.9	2,155	30.9	331	—

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 △58百万円 (—%) 25年3月期第2四半期 368百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	△3.10	—
25年3月期第2四半期	3.32	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第2四半期	168,296	33,313	19.3	282.72
25年3月期	177,642	34,011	18.6	289.34

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 32,413百万円 25年3月期 33,102百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	6.00	—	6.00	12.00
26年3月期	—	6.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	6.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	188,400	3.7	9,160	2.5	8,370	3.8	3,530	14.4	30.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期2Q	155,199,977 株	25年3月期	155,199,977 株
② 期末自己株式数	26年3月期2Q	40,552,037 株	25年3月期	40,791,572 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期2Q	114,502,938 株	25年3月期2Q	99,935,211 株

(注) 自己株式数には、従業員持株会型ESOP信託口が所有する当社株式数1,080,300株を含めております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

【添付資料】

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、円安・株高を背景に企業収益の改善や消費の持ち直し等回復の動きが見られた一方で、海外経済の減速懸念等により、先行き不透明な状況が続きました。

そのような状況下、当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績については、顧客件数の増加により売上高は84,315百万円（前年同期比0.8%増）と増収を果たしましたが、成長に向けた費用を戦略的に投じたことにより営業利益は411百万円（同84.0%減）、経常利益は303百万円（同85.9%減）、四半期純損失は354百万円（前年同期は331百万円の利益）となりました。

なお、当社グループの当第2四半期連結会計期間末における継続取引の顧客は、新規獲得が順調に進んだこと等により、期首から53千件増加し、2,498千件となりました。

また、当社グループが提唱する、お客様の快適な生活を総合的、且つきめ細やかにサポートする“TLC（Total Life Concierge トータルライフコンシェルジュ）”の一環として、平成24年12月より開始した「TLC会員サービス」（当社グループが提供するサービスのご利用に応じてポイントを還元するサービス）の会員数は、当第2四半期連結会計期間末で期首から165千件増加の270千件となり、顧客の早期囲い込みを実施しました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、従来「ガス及び石油」に含めていた「アクア」を、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。以下の業績については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えて比較しております。

## (ガス及び石油)

液化石油ガス事業につきましては、引き続き他社との競合が厳しい環境の中で、中止件数の増加に歯止めをかけたことで純減傾向が改善し、顧客件数576千件を維持しました。しかし、気温の影響やお客様の節約志向の高まり等によりLPガスの販売数量が前年同期を下回ったため、売上高が前年同期を下回りました。

これらにより、当部門の売上高は41,846百万円（同1.8%減）、営業利益は170百万円（同75.3%減）となりました。

## (建築及び不動産)

建築及び不動産事業につきましては、戸建住宅の販売が好調に推移したことに加え、総合リフォームサービスについても「TOKAI WiLL リフォーム」（WiLLはWe Will Link Lifeの略）ブランドの浸透により、着実に成果を上げてまいりました。

これらにより、当部門の売上高は7,250百万円（同10.8%増）、営業利益は38百万円（前年同期は137百万円の損失）と黒字を回復しました。

## (CATV)

CATV事業につきましては、大手通信事業者が放送サービスエリアを拡大したこと等により、放送サービスの顧客件数が期首から2千件減少し503千件となりました。一方、バンドル化の推進、長期継続約束割引の適用による囲い込みにより通信サービスの顧客件数が期首から3千件増加し190千件（CATV-FTH130千件、CATVインターネット60千件）となりました。

これらにより、当部門の売上高は12,049百万円（同1.8%増）、営業利益は486百万円（同13.7%増）となりました。

#### (情報及び通信サービス)

ブロードバンド事業につきましては、大手家電量販店などの取次店各社及びF T T Hキャリア事業者との提携によるF T T Hの新規顧客獲得が順調に推移し、顧客件数は期首から25千件増加し、829千件となりました。また、平成25年4月から、西日本エリアにおける情報通信サービスを本格的に開始しました。

これらにより、当部門の売上高は18,868百万円（同2.1%増）となりましたが、一部家電量販店での獲得コストの増加等により、営業利益は1,286百万円（同37.2%減）となりました。

#### (アクア)

アクア事業につきましては、静岡県内の顧客基盤を活かした事業展開に加え、今年5月より関東エリアに本格参入し、急成長している市場の拡大に対して、時宜を的確に捉えた積極的な展開を進めました。

宅配水ワンウェイサービスのブランド名を「おいしい水の贈りもの うるのん」に改めるとともに、「ドラえもん」をイメージキャラクターに起用する等、子育て主婦層をターゲットとしたブランド戦略を展開したほか、大型商業施設や家電量販店の店頭とL P ガス直販ルートの両面からFace to Faceの営業に取り組み、顧客件数が期首から18千件増加し120千件となりました。

これらにより、当部門の売上高は2,102百万円（同9.0%増）となりましたが、関東市場における顧客獲得推進のために「うるのん」ブランドの浸透や獲得体制の強化に戦略的な販促費用を投じたこと等により、営業損失は1,378百万円（前年同期は454百万円の損失）となりました。

#### (その他)

介護事業につきましては、平成25年8月に3施設目となる「リフレア清水村松（デイサービス施設）」を開設しました。既存施設の利用状況も順調であり増収となりました。婚礼催事事業につきましても、婚礼挙式組数が増加したことにより増収となりました。一方、船舶修繕事業が受注の先送り等により減収となりました。

これらにより、当部門の売上高は2,196百万円（同0.6%減）、営業損失は157百万円（前年同期は181百万円の損失）となりました。

## (2) 連結財政状態に関する説明

### (資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は168,296百万円となり、前連結会計年度末に比べ9,346百万円の減少となりました。

これは主として、現金及び預金が1,469百万円、受取手形及び売掛金が4,806百万円、減価償却等により有形固定資産が1,678百万円及び無形固定資産が1,323百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は134,983百万円となり、前連結会計年度末に比べ8,648百万円の減少となりました。

これは主として、支払手形及び買掛金が2,067百万円、流動負債のその他が3,498百万円（主に設備未払金1,580百万円、預り金1,284百万円）、償還により社債が2,080百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は33,313百万円となり、前連結会計年度末に比べ697百万円の減少となりました。

これは主として、その他有価証券評価差額金281百万円の増加がありましたが、四半期純損失354百万円を計上したこと、剰余金の配当により693百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、自己資本比率は19.3%（前連結会計年度末は18.6%）となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末から1,369百万円減少し2,747百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動により得られた資金は10,043百万円（前年同期比2,490百万円の減少）となりました。これは主として、仕入債務の減少、法人税等の支払による資金の減少がありましたが、売上債権の減少による資金の増加、減価償却費及びのれん償却額の非資金項目があったこと等によるものであります。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は5,049百万円（同392百万円の増加）となりました。これは主として、有形及び無形固定資産の取得による支出によるものであります。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は6,378百万円（同1,338百万円の減少）となりました。これは主として、リース債務の返済による支出、社債の償還による支出等によるものであります。

(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、事業成長に向けた施策を上期に前倒しで実施し費用が先行したため、営業利益、経常利益、四半期純利益が前回発表の業績予想値を下回る結果となりましたが、グループ収益基盤である顧客件数が上期に5万件強純増して250万件となるなど順調に推移しております。また、合理化施策等の取組みも進捗していることから通期業績予想につきましては、前回発表の業績予想値を据え置くことといたします。

2. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,235	2,765
受取手形及び売掛金	20,944	16,137
商品及び製品	6,383	6,331
仕掛品	859	867
原材料及び貯蔵品	899	865
その他	7,435	7,189
貸倒引当金	△406	△314
流動資産合計	40,351	33,842
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	45,597	43,955
機械装置及び運搬具（純額）	22,829	22,176
土地	21,799	21,799
その他（純額）	16,375	16,992
有形固定資産合計	106,602	104,923
無形固定資産		
のれん	12,632	11,307
その他	2,273	2,275
無形固定資産合計	14,906	13,582
投資その他の資産		
その他	16,432	16,568
貸倒引当金	△793	△735
投資その他の資産合計	15,638	15,832
固定資産合計	137,147	134,339
繰延資産	143	114
資産合計	177,642	168,296

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,019	10,951
短期借入金	44,454	48,346
1年内償還予定の社債	4,160	4,160
未払法人税等	1,503	1,326
引当金	1,481	1,489
その他	17,944	14,445
流動負債合計	82,563	80,719
固定負債		
社債	7,160	5,080
長期借入金	36,933	32,168
引当金	1,454	1,664
その他	15,520	15,350
固定負債合計	61,068	54,263
負債合計	143,631	134,983
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	14,000	14,000
資本剰余金	22,183	22,183
利益剰余金	4,225	3,177
自己株式	△8,313	△8,251
株主資本合計	32,096	31,109
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,001	1,282
為替換算調整勘定	5	21
その他の包括利益累計額合計	1,006	1,303
新株予約権	324	322
少数株主持分	584	578
純資産合計	34,011	33,313
負債純資産合計	177,642	168,296



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	83,610	84,315
売上原価	51,757	53,567
売上総利益	31,852	30,748
販売費及び一般管理費	29,279	30,337
営業利益	2,573	411
営業外収益		
受取利息	18	19
受取配当金	65	74
設備賃貸料	107	108
貸倒引当金戻入額	—	139
その他	275	287
営業外収益合計	466	629
営業外費用		
支払利息	762	613
その他	121	123
営業外費用合計	883	737
経常利益	2,155	303
特別利益		
固定資産売却益	2	2
伝送路設備補助金	20	37
投資有価証券売却益	—	106
特別利益合計	23	146
特別損失		
固定資産売却損	25	0
固定資産除却損	634	388
投資有価証券売却損	1	—
投資有価証券評価損	390	—
特別損失合計	1,051	388
税金等調整前四半期純利益	1,126	61
法人税、住民税及び事業税	1,417	1,194
法人税等調整額	△631	△777
法人税等合計	786	417
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	339	△355
少数株主利益又は少数株主損失(△)	8	△0
四半期純利益又は四半期純損失(△)	331	△354

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	339	△355
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	33	281
為替換算調整勘定	△5	15
持分法適用会社に対する持分相当額	—	1
その他の包括利益合計	28	297
四半期包括利益	368	△58
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	360	△57
少数株主に係る四半期包括利益	8	△0

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,126	61
減価償却費	7,059	7,294
のれん償却額	1,655	1,463
受取利息及び受取配当金	△83	△93
投資有価証券売却損益(△は益)	1	△106
支払利息	762	613
固定資産売却損益(△は益)	22	△2
投資有価証券評価損益(△は益)	390	—
固定資産除却損	634	388
売上債権の増減額(△は増加)	5,485	5,282
たな卸資産の増減額(△は増加)	599	78
仕入債務の増減額(△は減少)	△3,078	△1,982
その他	△589	△1,651
小計	13,987	11,347
法人税等の支払額	△1,453	△1,304
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>12,533</b>	<b>10,043</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
利息及び配当金の受取額	110	119
有価証券の取得による支出	△7	△188
有価証券の売却による収入	3	123
有形及び無形固定資産の取得による支出	△5,676	△5,599
有形固定資産の売却による収入	89	63
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	508	—
貸付けによる支出	△7	△24
貸付金の回収による収入	126	48
その他	194	408
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△4,657</b>	<b>△5,049</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
利息の支払額	△781	△653
短期借入金の純増減額(△は減少)	7,255	6,220
リース債務の返済による支出	△1,665	△1,916
長期借入れによる収入	2,200	4,600
長期借入金の返済による支出	△12,241	△11,691
社債の償還による支出	△1,750	△2,080
自己株式の取得による支出	△0	△0
自己株式の処分による収入	—	70
配当金の支払額	△499	△691
その他	△235	△235
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△7,717</b>	<b>△6,378</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△5	15
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	153	△1,369
現金及び現金同等物の期首残高	2,432	4,116
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,585	2,747

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ガス及び 石油	建築及び 不動産	C A T V	情報及び 通信サー ビス	アクア	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	42,599	6,541	11,840	18,488	1,929	81,399	2,211	83,610	—	83,610
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	118	510	518	1,416	10	2,573	39	2,613	△2,613	—
計	42,717	7,051	12,358	19,905	1,939	83,973	2,250	86,224	△2,613	83,610
セグメント利益 又は損失(△)	688	△137	428	2,049	△454	2,575	△181	2,393	179	2,573

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、婚礼催事事業、船舶修繕事業、保険事業、介護事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、主にセグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ガス及び 石油	建築及び 不動産	C A T V	情報及び 通信サー ビス	アクア	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	41,846	7,250	12,049	18,868	2,102	82,118	2,196	84,315	—	84,315
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	103	1,304	475	1,447	32	3,363	100	3,463	△3,463	—
計	41,949	8,555	12,525	20,316	2,134	85,482	2,297	87,779	△3,463	84,315
セグメント利益 又は損失(△)	170	38	486	1,286	△1,378	603	△157	445	△34	411

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、婚礼催事事業、船舶修繕事業、保険事業、介護事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、主にセグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、アクア事業について静岡県内の顧客基盤を活かした事業展開に加え、ワンウェイサービスによる関東市場をはじめとした本格的な全国展開を開始したため、経営資源の配分及び業績の測定にあたってアクア事業を独立した事業として区分する必要性が高まりました。これに伴い、従来「ガス及び石油」に含まれていた「アクア」について、報告セグメントを区分して記載する方法に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第2四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。